NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第 20 号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
企画委員会《 広報宣伝部 》
発行日：2023 年 9 月 第 20 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯（さえき） 剛（たけし）
TEL 6651－7741
Fax 6652－8841

大地協の最新☆情報は右記 ➔
QR コードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

大地協への思いと展望

大地協との出会いは、私が高齢者施設に異動となり（１９９５年）勿論、その頃はすでに「介護福祉士」という資格がある時代。私はと言えば保育士（このころは保母さん）の資格でいきなり高齢者。カルチャーショック！そんな時に大地協に誘っていただき、「お年寄り研究会」を発足。１か月に１回の研究会が楽しくて楽しくて！その後の 🍺 の美味しかったこと！２００１年の大阪が会場の全国研修では故小掠先生と一緒に会場探しに奔走しました。これも楽しい思い出です。そして私は高齢者施設が保育士の年数をとっくに追い越しました。残念ながら「お年寄り研究会」は休眠状態（休眠にしておきましょう）になっています。さてどうするか？心おれそうなときに「お年寄り研究会」があり、助け助けられの関係がありそれをなくすのか？どうする大地協・・・。

そしてこの度、わたくし加藤は会長に就任することになりました。世界は戦争や、紛争、貧困などに苦しんでいますが何もできません。日本は超高齢社会に突入しています。子どもの方はといえば、「異次元の少子化対策」とうたわれていますが子どもを取り巻く環境はいかがなものなのでしょう？大地協では毎回「不登校」の問題が取り上げられています。一つの社会問題となっていますよね。生き辛さを感じている子どもが多くなっているのでしょうか？大地協の施設では、制度にはないけれど、その子どもたちに手を差し伸べているのです。「子どもたちの最善の利益」のために今後もみんなで話し合って行動していきましょう。

最後に、多様性、女性活躍と言われていますが、会長として参加する会議は女性の少ないこと！どんどん大地協の行事などに参加して下さい。人材不足、物価高騰、コロナ、良い話は少ないけれど楽しい時間を過ごしましょう。微力ながら皆様とともに頑張っていきたいと思います。そしてみんなで「セツルメントしてる？」と声を掛け合いましょう。

育徳園創設者 早川徳次

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会 会長

社会福祉法人 育徳園
特別養護老人ホーム いくとく 施設長 加藤 久美

地域福祉の現場から

『使命』と『指名』

コロナ感染症が蔓延してからもう４年目となり、2023 年度はガーデン天使に活気をもたらす、活動する年と決め５月に今年度初めて一大イベント、「マグロの解体ショー」を企画し、無事開催、大いに盛り上がり、皆で美味しくいただきました。ご家族、入所者、デイ、ショートご利用方々とスタッフも開催前からワクワクを越えて未知の体験、鑑賞にソワソワ　ウキウキ　ワイワイ！信じられない大きさのマグロに「おぉぉぉ！！」という拍手と歓声から、写真撮影に、解体の凄さに圧倒され、終始行事では味わったことのない充実感満載の２時間でした。入所者の皆さんは、いつもは行事の感想をスタッフとお話しされる期間は長くても２日程度なのに、今回は１週間経ってもあの時の興奮をお話してくださいます。私たちの施設は常に利用者、入所者の方々がリラックスをした気持ちで、楽しい時、しんどい時、辛い時等に、その気持ちをしっかりと安心してスタッフに伝えることができる、そのような関係になれるように、日々の生活からフロアの雰囲気作りに気を付け、様々な取り組みや検討、会議、四季折々の行事等を行っています。当施設は長期勤続介護士がとても多く、２世代、３世代に渡り入所申し込みをされるご家族の方が「知っている顔のスタッフがいて安心しました。またよろしくね」と言っていただき、そのような時は、またご縁をいただけたことに、皆でとても喜びます。時代が変わっても、ガーデン天使として地域やご利用者の方々に求められる、指名をいただける施設であるために、私たちは特別養護老人ホームという施設ではありますが、その中に小さな社会、コミュニティを作り、職員同士が与えられたことをこなす、のではなく「利他の心」と「使命感」を持って関わる全ての方とお付き合いができれば、きっとここに来たい、ここなら安心して見てもらえるという「ご指名」がいただけるのではないかと、そのような思いを持って今後も施設全体で取り組んでいきたいと思います。

社会福祉法人 イエス団

特別養護老人ホーム ガーデン天使 施設長　嶋田 真奈

久しぶりの大地協☆職員交流会！！

私は、平成 27 年に保育部へ異動になりしばらく大地協から離れておりました。
昨年度、都島児童館を兼任し、また大地協に参加し始め、そして今年度は大地協役員もお受けすることになりました。まだまだお役には立てていませんが、これからよろしくお願いいたします。

新型コロナウィルス感染症が流行し生活習慣を変えざる得なかった４年間。いろんな工夫と対策の中で各施設過ごしてきました。今年の５月に５類に移行し少しずつ緩和した生活に戻り始め、大地協でも対面での会議が復活し、以前一緒に活動をしていた先生方と再会し「お久しぶりです」の声掛けから「また一緒に・・・」と話せたことが嬉しかったです。
そして７月には加藤会長の企画により「大地協職員交流会～夏真っ盛り、しかし夏が始まる前に～」が特別養護老人ホームいくとくで開催されました。
各施設「待ってました!!」「再びこれができて嬉しい」とたくさんの職員が集まり食べて、飲んで、おしゃべりの２時間を過ごしました。私も９年ぶりに参加し「これぞ大地協」と思いながら懐かしい顔ぶれの先生方、新しく出会えた先生方と楽しくおしゃべりをさせていただきました。また、都島が大地協から遠のいていたので、どう参加していくかを話すと、「できるとこからやっていったらいい」「都島も巻き込んでやっていこう」と他の職員にも声をかけてくださり心強く思いました。施設を超えた交流のいいところが「大地協なんだ」と改めて感じた交流会でした。

社会福祉法人 都島友の会

都島児童館 館長　守屋 美智子

子どもたちの笑顔がいっぱいに広がった日

園では 8 月に「平和を考える日」を作っています。今年は、幼児ホーム（3.4.5 歳児の混合クラス）で 積木や数遊びを教えてくれる“個育ちネットたんぽぽ”の講師による絵本の読み聞かせ、原爆のお話、歌、詩の朗読を鑑賞しました。子どもたちはとても真剣な表情で身を乗り出してお話を聞き、それぞれ自分の感性でその怖さや悲しみを感じ取っているように思いました。最後に CD で「1 本の鉛筆」の歌を聞き、講師の方が紙と鉛筆を取り出し、「1 本の鉛筆があれば、私は自分の顔を描く！」とササッサーっと自分の似顔絵を描いてくれました。子どもたちは大喜びで「似てるー！」と絶賛。「みんなもぜひ自分の笑っている顔を描いてください。」と平和を考える会を閉じられました。その後クラスに戻ってすぐに子どもたちが思い思いにスケッチブックを出して絵を描き始めました。自分の顔の周りにお友達の笑っている顔、お花や、虹。スケッチブックが並ぶと、子どもたちの笑顔がいっぱいに広がり、見ている私たち大人も笑顔になりました。子どもたちの絵から”平和ってこういうことだよ“と教えてもらい胸が熱くなりました。笑顔の尊さ、平和の尊さ、そして大切に守っていく大人の責任を強く感じました。子どもたちは笑顔を保障される権利があり、それを奪われることに対して「いやだ！」という権利があります。ウクライナでの戦争の報道も子どもにとってはアニメやゲームの世界と混在し現実に起こっていると理解するのは難しい環境にありますが「戦争は大切な人を奪い、楽しい生活を奪う怖くて悲しいこと」を知って欲しいし、平和を作っていく子どもに育っていってほしいと願います。私たち大人は戦争、虐待、貧困の問題など子どもの命、育ちが奪われている現実に目をそらさず、ひとり一人の子どもの権利が守られ、笑顔が保障される社会を作っていけるようにしていきたいです。そして毎日の仲間との楽しい遊びの体験を大切にし、子どもの笑顔がいっぱい輝く保育をしていきたいと思います。

1本の鉛筆

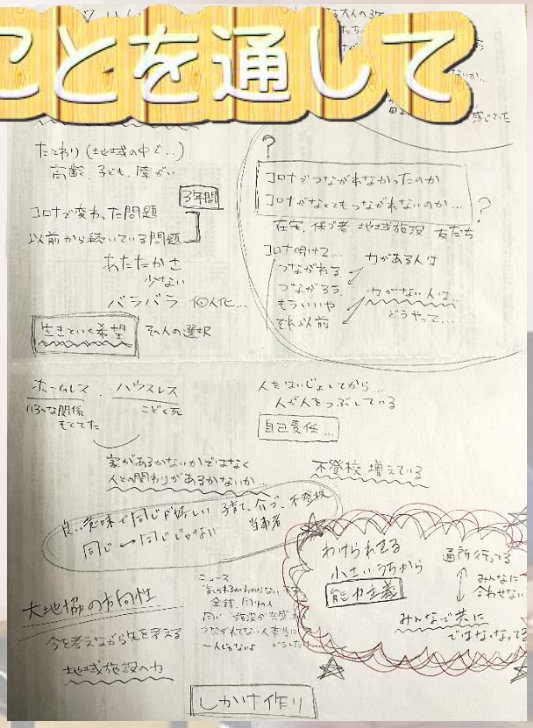
＜作詞：松山善三　作曲：佐藤勝＞

あなたに聞いてもらいたい
あなたに読んでもらいたい
あなたに歌ってもらいたい
あなたに信じてもらいたい
1本の鉛筆があれば
私はあなたへの　愛を書く
1本の鉛筆があれば
戦争はいやだと　私は書く

＊1番のみ記載

社会福祉法人 大阪キリスト教社会館
めぐみ保育園 園長 梅田 るつ子

話す、聴く、考えるということを通して



大地協で開催される研修会で私がとても素敵だなと感じるところは、大人数ではなく少人数で開催されるところだ。大人数での研修会や、講師の方をお招きして受ける研修会も好きだが、一人ひとりの顔が見える形で参加者が発言する機会がある研修会は参加していてとても楽しい。その中で同じ地域福祉施設で働く方々の意見を聴くことが、自分の中での新しい発見や気付きにもつながる。また、日々働いていると自分一人では何の力にもなれていないと実感することや、何か行動を起こしたいけれど動けないもどかしさを感じる。しかし、研修会に参加することで同じような悩みや葛藤を抱いている人たちがいることに気付かされる。同じ思いを抱いている人たちが身近にいるということは、自分が地域福祉施設で働く何よりの原動力になると思う。この研修会に参加することで、自分一人ではないのだと感じたり、私にも何かできるのではないかと思わせてくれる。

また、様々な意見を出し合う中でも誰のことも否定せず、参加者全員で一人ひとりの話を聴き、その意見に対して一緒に考え、学びを深めていく。そのような研修会に参加して感じることは、自分の話を否定せずに聴いてもらえる環境は安心できる居場所になるということだ。

地域福祉施設で何年、何十年と働いていても利用者の方と信頼関係を築くことはとても難しい。自分がこの大地協という居場所で感じたように、安心して話すことができる環境をどのように作っていくことができるのか。自分自身が利用者の方の安心できる居場所、存在になるにはどうしたらいいのか。研修会のテーマを学ぶだけではなく、地域福祉施設で働く者としての基本的なことを教えてもらっているような気がする。

これからも、たくさんの研修会にできる限り参加していきたい。そして学んだことを仕事に活かすことができるよう日々努力をしていきたいと思う。

社会福祉法人 石井記念愛染園
わかくさ保育園　神谷 雅美

これからの大地協への思いと願い

今年のセツルの家の利用も無事終り、多くの子ども達が喜びの体験を重ねたことだろう。ただ朝５時半頃、お陽さまが昇ってくると熱く感じる。コロナ前に比べるとたしかに温度が上り温暖化を実感する。
虐待や不登校、その他のニーズを抱えた家庭や発達支援児に対する支援は大地協加盟施設ではほとんど日常的に行われている。又、大地協が行っている中高生のボランティアワークや日地協研修会への参画を通じて、若い時から福祉の世界に触れることにより、将来の福祉の世界の人材に繋がってほしいと願う。又、大地協の各研究会で行っている研究会や研修会は職員の資質向上に充分役立っていると思う。将来的には放課後児童支援員の資格も国家資格として認められることを願う。

大地協の各施設では数多くの職員を各研究会に派遣していただいている。これからは働き方改革が問われてくるので、しっかり休日を確保した上で、自己実現なり大地協のボランティアとして自主的に参画してほしいと思う。
さて今日生成 AI が急に話題に上って来た。間違った情報を正しい事のように誘導するとも云われる。事の虚実を見抜き、人間としての主体を貫いて、生きるには認知能力だけではなく非認知能力の獲得を乳幼児時期からしっかりした保育、教育理論によって求められる所似である。

生成 AI に勝る為の生き様、学びとして次の様なものが考えられる。ほんものの宗教・他人が喜ぶボランティアや親切、音楽、芸術等の創造的行為、再生的修理（用材、用具、芸術的眼＜まなこ＞）、創造的スポーツ（例 登山）、若者と対話する集り作り・親や地域を巻込んだ祭としてのバザーや集会（縁と宴）等であろう。
最後に日地協の組織を現在の東京・横須賀・名古屋・大阪だけでなく、もっと全国的に広げてもらうことを願うと同時に、大地協や日地協のプログラムや研修会が人間性回復の居場所となってくれることを願うものです。

信念の人　菅良介 先生

忘れもしない２００１年５月の私保連総会で自然体験施設六甲山の家の建築計画は反対に合い頓挫した。当時、建設委員長であった私は一日も早い野外活動体験施設を望んでいた。

その年の１２月の理事会に臨時総会開催をお願いし、建築計画の再上程を図ったところ、やはり反対の声が上がった。その時、菅先生がやおら立ち上がり「皆さん、子どもにとって野外体験程大切なことはありません。せっかく戴いた土地です、大地協や学童でも使います。幸いなことに私保連は大阪市からこの社会福祉会館を借用出来ることになったので、会館建設の為の積立金も使って、山の家を建てようではありませんか。六甲山の家は正に私保連会館ですよ」と会員を説得されたのです。

当時１２０ヶ所程であった園は各３０万円を拠金して、見事２００２年７月８日竣工の日を迎えたのであった。菅 良介先生は正に信念の人であったと今も感謝の念に堪えない。

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会 前会長
社会福祉法人 しんもり福祉会
平和の子子どもの家　施設長　松野 五郎